RC Logger®

JAP 取扱説明書

88010RC (mode 1)

CE

RC EYE One S (Japan)

ページ3 – 38

JAP これらの取扱説明書はこの製品に関するものです。これらの取扱説明書には、この製品のセットアップと使用に関する重要な情報が記載されています。この製品をご自身のためではなく、贈り物としてお買い上げいただく場合でも、この取扱説明書をよくご覧下さい。今後のために、この取扱説明書を保管しておくようにして下さい。記載内容については3ページの目次の各項目に対応するページをご覧下さい 。

This manual is available in 7 Languages.
Please go to www.rclogger.com/ones-mode1/manual
to download your preferred language.

目次

1. はじめに 4
2. 使用目的 5
3. 同包物 5
4. 安全についての説明 6
5. 製品説明 9
6. 操作部品 10
7. スタート準備 11
8. 送信機とRC EYE One Sの操作部品 13
9. 安全な取り付け 15
10. 初めての飛行に関する説明 17
11. 初めての離陸 27
12. 2.4 GHZ TX とRXのバインディング 29
13. 2.4 GHZ周波数ホッピングー「FHSS」 29
14. メンテナンス、保守、修理 30
15. 廃棄 33
16. スペアパーツ 34
17. Federal Communications Commission (FCC) Disclaimer 36
18. 製品サポート 37
19. 技術データ 37
20. RC EYE One Sの予備リリース情報 38

1. はじめに

お客様方へ

RC Logger®製品をお買い上げいただきまして、誠に有りがとございます。ただ今、お買い上げいただきましたのは、非常に高い信頼性の優れた製品です。

この製品は販売しております全ての国々とヨーロッパの規格・基準に準拠しております。製品の状態を保持し、製品を安全に動かすために、取扱説明書に基づいてお使いいただきますよう、お願い申し上げます。この取扱説明書は、本製品に関するものです。取扱説明書には、試運転と取り扱い関する重要な注意事項が記載されています。本製品を第三者に譲渡される場合には、このことを考慮してください。

今後のために、本取扱説明書を保管しておかれますよう、お願い申し上げます。

ここに記載されているすべての会社名と製品呼称は、それぞれの所有者の商標です。著作権所有。

新RC Logger®製品でお楽しみいただけるよう願っております。

2. 使用目的

モデル「RC EYE One S」は、本機単独で飛行と操作を楽しむよう、私的な使用目的用に設計されたモデル・ヘリコプターです。本システムは他の使用目的には適しません。上記以外の使い方をすると装置が破損する恐れがありますさらに、本装置には、ショート、火災、感電などの危険の恐れがあります。すべての状況において、安全に関する説明に注意してください。
本製品は湿らせたり濡らしたりしないで下さい。この製品はおもちゃではありませんので、14才以下のお子様には適していません。
安全と認証目的(CE)のため、この製品を組み立て直したり、かつ/または改造してはなりません。この製品を上記以外の目的に使用された場合、製品が破損する恐れがあります。さらに、不適切な使用をされると、短絡、火災、感電などをの危険を引き起こす場合があります。この取扱説明書をきちんとお読みいただき、記載事項をお守り下さい。この製品を第三者にお使いいただく場合も取扱説明書と一緒に利用してもらってください。

3. 同包物

> RC EYE One S ：1個
> 1 x リチウムポリマー(LiPo)電池 (2 x 3.7 V 350 mAh)
> USB リチウムポリマー充電器：1台
> 交換プロペラ：4本 (2 x 黒：2本, 2 x 赤：2本)
> リモコン (送信機)：1台
> AAA 電池：2個
> 取扱説明書

4. 安全についての説明

取扱説明書をきちんとお読みいただき、特に安全についての説明をよくご覧下さい。この説明書に記載の安全についての説明や指示に従わなない場合には、その結果生じる身体傷害やは器物破損について、当社は一切義務を負いません。そのような場合は保証が無効となります。

人／製品

> 装置は玩具ではありません。子どもやペットの手が触れない場所に保管してください。
> 包装材料を不注意に散らかしたままにしないでください。子どもが触ると危害を及ぼす恐れがあります。
> 製品に湿気を与えたり濡らしたりしてはいけません。「RC EYE One S」には精密な電子制御回路が使われており、電子回路は温度変化に敏感で、特定の温度範囲でのみきちんと働くよう設計されています。0° C以下での使用はお避け下さい。
> 機械的なストレスが加わる場所に置かないで下さい。
> 製品を安全に作動させることができなくなった場合には、作動させないようにして、誤って使えないようにして下さい。
> 次のような場合には安全な作動はもはや保証できません:
  - 破損が目視確認できる,
  - きちんと作動しない,
  - ひどい環境に長い間放置されていたり,
  - ひどい輸送関連のストレスがずっとかかっていた。
> 製品は注意深く取り扱ってください。揺すったり、衝撃を与えたり、低い場所から落下させても製品が破損することがあります。

試運転の前に

> 定期的に、お持ちのモデルの、機能の信頼性とリモコンシステムをチェックしてください。不完全なコネクタの接続やケーブルの破損ような目視可能な損傷を注意して見て下さい。
> モデルの可動部品は、すべて滑らかに動く必要がありますが、ベアリング部に動きがあってはいけません。
> 各部を動かす前にプロペラがきちんとしており正しい位置にあることを確認してください。
> 飛行用電池は、この取扱説明書に従って充電してください。
> 送信機に入れてある電池の残容量が十分なことを確認して下さい(電池テスタで)。電池が空の場合は、常に2個ともセットで交換してください(1個ごとの別交換は決してしないで下さい)。

> 必ず最初にリモコン(送信機)のスイッチを入れてください。送信機のスイッチを入れるときに、スロットルコントロールの位置が最低回転位置(モーターが回転しない位置)にセットされることを確認してください。それから、モデルの飛行用電池を接続してください。そうしないと、モデルが思いがけない動きをしてプロペラが不意に回り出すことがあります!
> プロペラが回っているときには、プロペラの回転域とサクション域に本体部品を含め、何もないことを確認して下さい。

作動中

> モデルを操作する場合には、いかなる危険も冒さないでください。モデルを扱う場合のご自身の安全と環境に対する責任はご自身にあります。
> 不適切な行動は、重傷になったり物的損害の原因となる場合があります。したがって、必ず作動させている間は、人、動物、または物まで、十分に安全な距離を保つようにしてください。
> お持ちのモデルを動かすのに適切な場所を選んでください。
> どのような場合にも、対応可能な環境である場合にのみ、モデルを飛ばしてください。疲労時、飲酒時、または薬服用時にはきちんと対応できない場合があります。
> 周りの人たちや自分自身にモデルを直接向けないようにして下さい。
> モーター、エレクトロニクス、および飛行用の電池はモデルが作動している間、熱を持ちます。このため、電池を再充電したり交換する場合は、飛行後5～10分間お待ち下さい。
> モデルを使用中に、決してリモコン(送信機)を切らないで下さい。着陸後は、必ず最初に飛行用電池を外して下さい。それからリモコンのスイッチを切って下さい。
> 故障や機能障害の場合には、再びモデルを使用する前に、問題を直して下さい。
> お持ちのモデルやリモコンを、長時間直射日光にあてたり、高温に曝さないでください。
> 激しい衝突(例えば高い高度からの)をさせると、電気ジャイロ・センサーが破損したり、かつ/または調整が狂うことがあります。したがって、再飛行前に機能性を十分テストして下さい。
> 衝突した場合には、スロットルが、すぐに0まで戻ります。プロペラが回転しながら障害物に接触するとプロペラが破損する場合があります。再飛行させる前に、傷がついていないか、壊れていないかチェックしてください。
> 蓄電池の電圧が低下することにより衝突してヘリコプター「RC EYE One S」が損傷するのを回避するために、必ず電圧低下表示灯のシグナルに注意をはらわれることをお勧めします。

電池

> 電池を取り付けるとき、極性をきちんと確認して下さい。
> 電池の液漏れによる損傷を防止するため、長期間に使用しない場合は装置から電池を外して下さい。漏れたり損傷した電池が皮膚に触れると、酸により火傷をする事がありますので、腐食した電池を扱う場合には適切な保護手袋を使用して下さい。
> 電池は子どもの手に届かない場所に保管して下さい。電池をそこいらに放っておかないようにして下さい。子どもやペットがそれを呑み込む恐れがあります。
> 電池はすべて同時に交換してくださいす。装置の中に古い電池と新しい電池を混ぜて入れると、電池の液漏れや装置が損傷することがあります。
> 電池を分解したり、短絡させたり、火の中に投げ入れないで下さい。乾電池を充電しないでください。爆発する恐れがあります。
> 乾電池と蓄電池を一緒に使わないで下さい。

リチウムポリマー(LiPo)電池

飛行終了後、飛行用LiPo電池は、「RC EYE One S」のエレクトロニクスシステムから取り外して下さい。「RC EYE One S」をお使いにならない時（例えば輸送または保管中）は、飛行用LiPo電池をヘリコプターの電子システムに接続したままにしないでください。そうしないと、飛行用LiPo電池は、完全放電する場合があります。完全放電すると電池が壊れ、使えなくなります。その他にも、干渉による故障の危険があります。ローターが不用意に動き出して、損傷したり怪我をしたりする場合があります。
充電式電池は火災や爆発の危険性があります。特に充電式LiPo電池は、内部化学製品のために、非常に湿気の影響を受けやすいです。充電器や飛行用LiPo電池を高/低温環境に置いたり、直射日光にさらさないでください。LiPo電池を取り扱うとには電池製造メーカーの特別安全情報をご覧下さい。

> 飛行用LiPo電池を使用直後に決して充電しないでください。常に、まず温度が下がるのを待ってから（少なくとも5-10分）充電してください。
> 飛行バッテリーを充電するために、付属のUSB　LiPo充電器あるいは「RC　EYE 1Station」(89041RC)だけを使ってください。
> 完全な損傷を受けていない電池だけを充電してください。蓄電池容器の絶縁が損傷している場合、あるいは蓄電池が変形したり膨張している場合、それを充電しないでください。火災や爆発を起こす恐れがあります。
> 飛行用LiPo電池のケースを破損させないでください。カバーの箔を切らないでください。とがっている物で飛行用LiPo電池を突き刺さないでください。火災や爆発の危険があります。
> モデルから充電する電池を外して、燃えないもの(例えばプレート)にそれを置いてください。可燃物から離して下さい(必要があればUSB延長ケーブルを使用)。

> 充電器と再充電可能飛行用LiPo電池の両方ともが充電時に発熱するので、十分な換気が必要です。充電器や飛行用LiPo電池を覆わないでください。もちろん、これは、このほか全ての充電器と蓄電池にも同様に必要なことです。
> LiPo電池を充電状態で放置しないで下さい。
> 完全に充電できたら、飛行用LiPo電池を充電器から外して下さい。
> 充電器は、湿気がない部屋でお使い下さい。充電器と飛行用LiPo電池は、湿気を与えたり濡らしたりしないようにしてください。

その他

> 装置の操作、安全性、接続について、わからないことがあれば熟練者にお問い合わせ下さい。
> メンテナンス、変更、修理は、もっぱら熟練者か有資格店で行ってもらってください。
> これらの取扱説明書に記載がない質問がある場合は、当社の技術サポートサービスか他の技術者にお問い合わせ下さい。

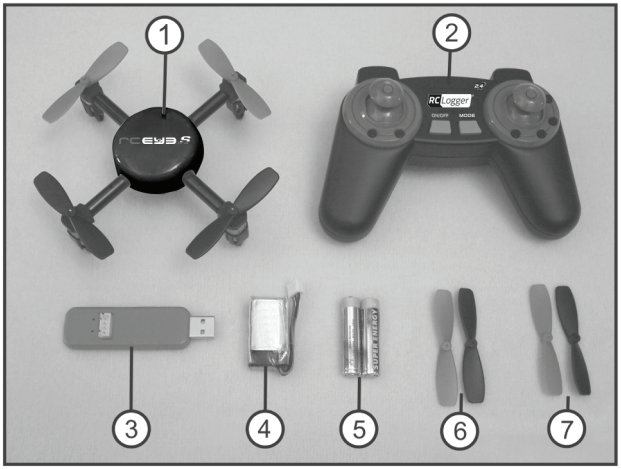
5. 製品説明

電気駆動ヘリコプター・モデル「RC EYE One S」は、4つの回転体のある、あらかじめ組み立てられた、ヘリコプターのような飛行モデルです。熟練者の間では、このような飛行装置が最もさまざまな用途に既に使用されています。位置制御と加速センサーを使った最新のマイコン制御のエレクトロニクス技術が「RC EYE One S」を安定させます。
特別に開発された制御による高品質の直流モーターが、長時間の力強い飛行を可能にしました。新しい制御と電子制御自己スタビライザーが素晴らしい正確な飛行を実現します。異なった飛行プログラムを使うことで、初心者にも熟練者にもきっとお楽しみいただけるものと確信しております。

フライトモデルは屋内と穏やかな気象条件の野外で作動させられます。 内蔵の電子制御は、飛行高度での望まれない小さな変化のバランスをとることができますが、それらを完全に取り除くことはできません。「RC EYE1S」の重量は100グラム未満なので、風や通気風敏感に反応します。

3つの異なった飛行モード(初心者、スポーツ、専門家)が選択できます。 それゆえ、モデルは経験豊富なモデルヘリコプター操縦士と同様、初心者のために設計されています。 通常の練習でモデルの最大限の可能性を引き出してください。

6. 操作部品



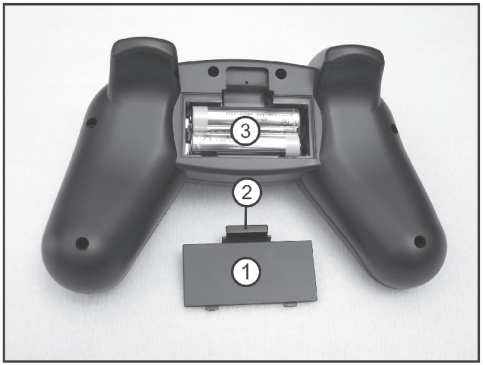
1. プログラム組み込み済み “RC EYE One S”
2. リモコン
3. USB式LiPo充電器
4. リチウムポリマー(LiPo)電池 (2 x 3.7 V 350 mAh)
5. 2 x 単四電池
6. 予備プロペラ2本,左回転
7. 予備プロペラ2本,右回転

スペアパーツリストは当社のウェブサイトwww.rclogger.comのそれぞれの製品用アクセサリー項で見つけられます。

7. スタート準備

電池を送信機に取り付ける

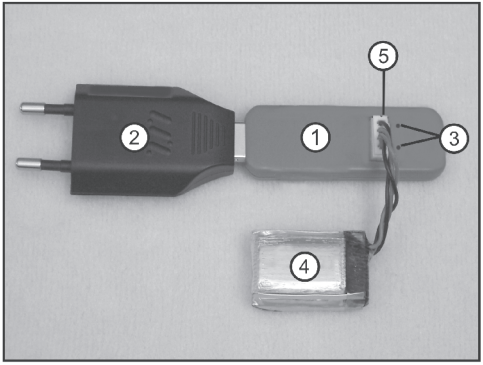
1. 発信機の電池室蓋(1)を取り外す。このときレバー(2)を少し押し下げる必要があります。
2. 単四電池を極性を間違えないように取り付ける(3)。極性が電池室の対応電池表示通りになっているか確認する。電池室蓋を取り付ける。



電池電圧が低(乾電池=1.5V, 蓄電池=1.2V)く、蓄電池は自己放電が大きいので、送信機に蓄電池をお使いいただくことは推奨できません。送信機電源の低電圧状態表示が作動します。
送信機は電力をほとんど消費しないので、電池は長時間持ちます。高品質のアルカリ乾電池のご使用をお勧めします。

飛行用電池の充電

破損の恐れがあるので、USB充電器を使って電池に充電するのに、いかなるコンピューターやノートPCのUSBポートもに接続しないで下さい。USBポートは、通常最大電流が500mAに制限されています。同包の充電器か89029RCの補助電池だけをお使い下さい。



1. USB出力ソケットが一つ付いたを付きの適切なプラグ・インのメインアダプタかシガライター・アダプタを各々使用する(出力5V/DCで少なくとも1.5A)。
2. (1)を含むUSB LiPo充電器をUSBメインアダプタ(2)、またはシガライターUSBアダプタに接続する。プラグ・イン充電器(あるいはアダプター)は少なくとも1.5Aの耐電流性が必要です。
3. 次に、電力線ソケットにプラグ・インの充電器を接続する。充電器のLED(3)が点滅します。
4. 充電器ソケット(5)に極性を間違えないように飛行用電池(4)を接続する。このためにプラグ外観を確認して下さい。電池に不具合がなく(高抵抗/断続)、メイン供給保証される場合、充電が開始されます。これは2個の赤色LED(3=チャージ・インジケータ)で表示されます。
   LED表示の種類と意:

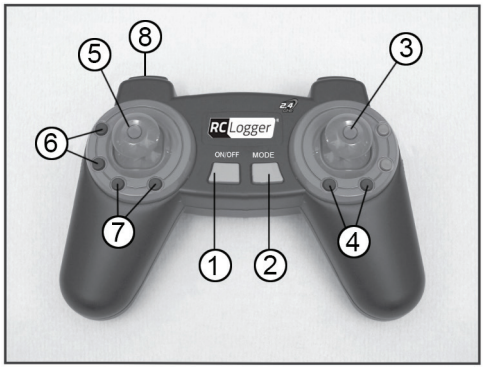
赤のLEDが点灯のまま:	充電中
赤のLEDが点滅:	赤のLEDが点滅　電池の故障、かつ/またはプラグの接続不良
赤のLEDが消灯:	電池の充電完了、電池がついていない、または満充電の電池が接続されている

電池パックの個々の電池性能は通常異っています。USB充電器は、2台の個別の充電器が一体になったものです。したがって、片方の電池が既に充電済み(LED消灯)で、別の電池はまだ充電中(LE点灯)ということがあり得ます。両方のLEDが消灯するまで電池のプラグを抜くのをお待ち下さい。
飛行用電池のプラグは特別のやり方で接続する必要があります。したがって、飛行用電池は一般のLiPo充電器では充電できません。したがって、飛行用電池を充電するには同包のUSB充電器だけをお使い下さい。

8. 送信機とRC EYE ONE Sの操作部品

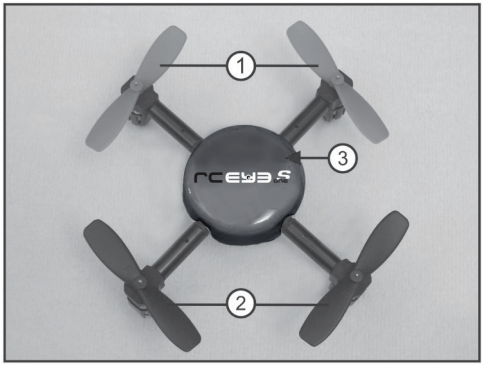
88010RC (モード 1)送信機

1. オン/オフ ボタン
2. モード ボタン
3. 右コントロールスティック(スロットルと補助翼)
4. 補助翼微調整
5. 左コントロールスティック(昇降舵と方向舵)
6. 昇降舵微調整
7. 方向舵微調整
8. アクロボタン



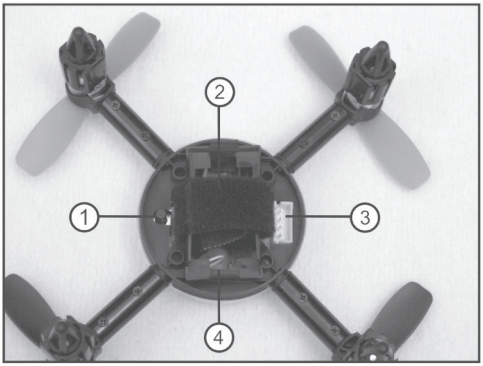
モデル上面視

1. フロントプロペラ
   （赤色プロペラ）
2. リヤプロペラ
   （黒色プロペラ）
3. 状態表示LED



モデルの下面視

1. 固定ボタン
2. 電池固定用フックとループテープ
3. 飛行用バッテリ接続コネクタ
4. 電池ホルダ



9. 安全な取り付け

「RC EYE One S」の送信機とモデルには、モデルの損傷を最小限にとどめるためのさまざまな保護安全装置が付いています。保護機構はLEDインディケータ(モデル)、または音による警報(送信機)によりわかります。

送信機

> 送信機がの電源がオンされる毎に、取り付けてある電池の充電状態がチェックされます。電池の電量が少なすぎる場合は、送信機の電源はすぐにオフになります。その後、送信機は電池の容量不足をの警報音を3回鳴らして報知します。

> 送信機が動いている間、充電状態は常にチェックされています。電池の容量量がある値よりも低くなると、送信機は電池容量不足を警報音を3回鳴らして報知します。この場合、すぐに飛行を中止し、送信機の電池を交換して下さい。

> また、送信機には自動停止機能が盛り込まれています。制御要素が一つも5分以上連続して操作されない場合は、送信機の電源は自動的オフされます。

> 固定タイマ機能による送信:
アラームI:4分1xピー音[3秒休止],1xピー音[3秒休止],1xピー音[3秒休止],1xピー音
アラームII:5分2xピー音[3秒休止],2xピー音[3秒休止],2xピー音[3秒休止],2xピー音
アラームIII:6分3xピー音[3秒休止],3xピー音[3秒休止],3xピー音[3秒休止],3xピー音
アラームIV:7分4xピー音[3秒休止],4xピー音[3秒休止],4xピー音[3秒休止],4xピー音

モデル

> 「RC EYE One S」のLEDは、モデルと送信機が「合っているかどうか」と、の制御信号をきちんと受信していることを表示します。これはLEDの点滅により表示されます。 LEDは設定される飛行モードに合った色で点滅します。
> 受信に何か干渉があれば、セット飛行モードの色でLEDが連続点灯状態になります。飛行中に受信干渉が長時間続くようだと、約5秒後にモーターの作動が止められます(緊急着陸)。
> 短期的な受信干渉は、受信制御信号と統合センサの信号に基づき、干渉直前の飛行状態を保持し、「RC EYE One S」は無視します。
> 「RC EYE One S」は絶えず接続されている電池の電圧をモニターしたいます。 一定期間、重要なレベル以下に電圧が下がると、LEDがオレンジ色で点滅し、報知します。
> 電池の電圧が下限値を下回ると、LEDはオレンジ色で点灯したままになります。この場合、すぐにモーターが止まりLEDが消灯し、緊急着陸が行われます。

「RC EYE One S」のLEDは飛行モードセット状態に応じて、緑色(初心者)、オレンジ(スポーツ)の、赤(熟練者)のいずれかの色で点滅します。短時間の電圧低下時には、初心者モードでは、LEDは緑色/オレンジ色で点滅します。スポーツモードでは、電圧低下時にはLEDは不規則に点滅します。電圧低下がずっと続くようだと、飛行モードのセット状態の如何にかかわらずLEDはオレンジ色で点灯したままになります。

また、「RC EYE One S」に満充電されていない電池を接続すると、電圧低下検出にが働きモーターは回りません。この場合、まず飛行用電池を満充電してから、もう一度離陸を試みてください。

別の安全対策として、1個以上のプロペラが一度でも止まると、モーターが停止します。これが起こった場合は、モデルのLEDが赤色で早い周期で点滅します。この状態をリセットするには、飛行用電池の接続を一度外してから再度取り付けて下さい。

10. 初めての飛行に関する説明

ステアリング装置のより簡単で一貫した説明には、古典的用語を使用します。これは飛行言語から来ていて、広く使用されているものです。
方向についての記述は、常にモデル中の「仮想の」パイロットの視点で説明されます。2本の赤いプロペラを方向指示器とみなします。それらが「正面」を意味します。

88010RC（モード 1）滑空飛行

ホバリング(滑空飛行)とは、上昇方向の揚力と下降方向の重量とが釣り合って、「RC EYE One S」が上昇してもいないし、下降もしていない飛行状態をいいます。中央のスロットルの位置調整でこの状態を達成することができます。スロットルレバー(図1a)を前に押してモータ速度を上げ、RC EYE One Sを上昇させてください。スロットルレバーを戻すすと、RC EYE One Sは下降します。スロットルレバーを引きっぱなしにするとモーターが止まります。

地面の近くを飛行しているときと離陸の間は、「RC EYE One S」に影響を及ぼす乱気流と空気の流れの影響を受けることになります。素早い制御応答が動き、これにより 「RC EYE One S」に前後、左右のわずかな動き生じることがあります。約50cm以上では、このいわゆる大地効果はなくなります。

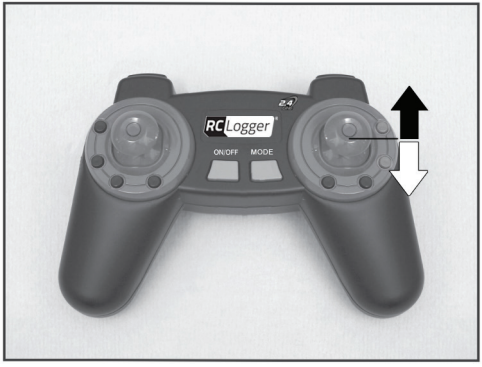


図 1a

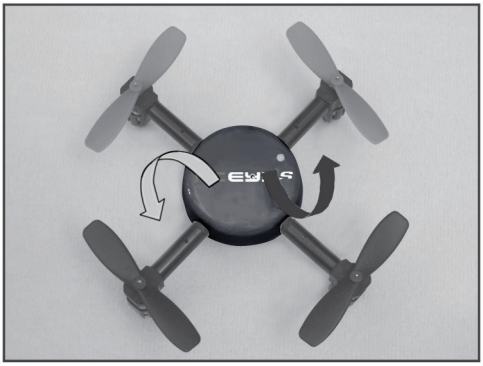


図 1b

88010RC（モード 1）方向舵

方向舵は方向舵軸(垂直軸)まわりの「RC EYE One S」回転を制御します。この動きは意図しないプロペラの速度トルクで起きたり、あるいは意図した飛行方向変更により生じます。「RC EYE One S」では、この動きは後部プロペラによってではなく、個々のプロペラの速度変動率によってコントロールされます。2本の赤いプロペラは「前方」を示します。
左のコントロール・レバー(図2a)を左移動させると、RC EYE One Sは左に曲がります。コントロール・レバーを右に移動させると、RC EYE One Sは右に曲がります。

滑空飛行中にRC EYE One Sが自身の軸の回りをゆっくり回転(図2bの白い矢印方向)する場合は、黒いトリムボタンで調整して下さい(逆回転方向)。RC EYE One Sが自身の軸回りに回転しなくなるまでトリムボタンを押してください。

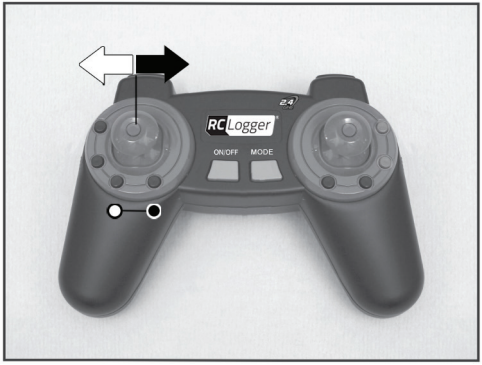


図 2a

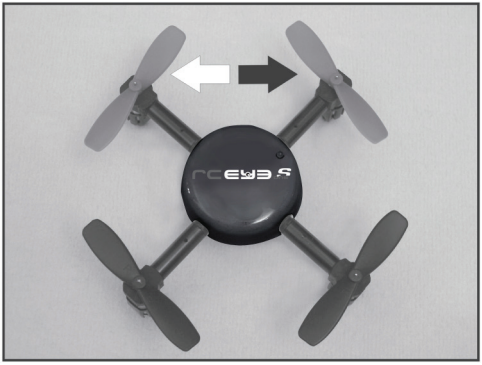


図 2b

88010RC（モデル 1）昇降舵

昇降舵は、頭をうなづくように動かす動きである横軸回りの動きを制御します。これにより、「RC EYE One S」の前後方向の飛行速度をあげたり下げたりできます。2本の赤いプロペラが「前方」を示します。

左側のコントロール・レバー(図3a)を前方に動かすとRC EYE One Sは前方に動きます。コントロール・レバーを後方に動かせばRC EYE One Sは後ろに動きます。滑空飛行中にRC EYE One Sが後方(図3bの白い矢印方向)にゆっくりと動く場合、黒色のトリムボタン(逆方向の)でモデルの動きを修正して下さい。RC EYE One Sの後方への動きが止まるまで、トリムボタンを押してください。

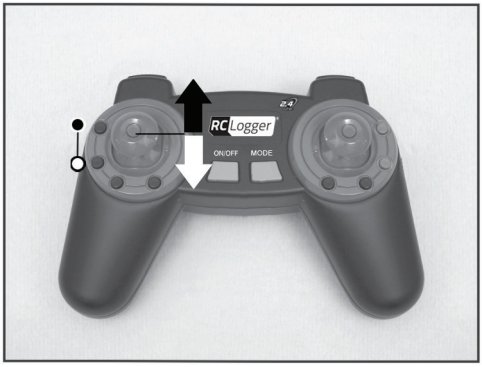


図 3a

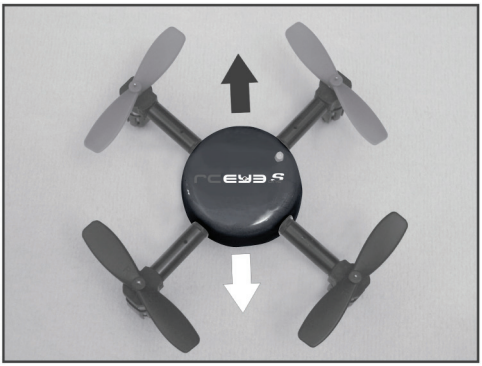


図 3b

88010RC（モード 1）補助翼

補助翼は、回転しているボールの左右への曲がり(あるいはカニの横走り)である飛行中心線のまわりの動きを調整します。「RC EYE One S」の片側を上げることにより横方向に動くことなく前方へ移動します。2本の赤いプロペラは「前方」を示します。
右のコントロールレバー(図4a)を左に動かすとRC EYE One Sは左に動きます。コントロールレバーを右に動かすと、RC EYE One Sは右に動きます。滑空飛行中にRC EYE One Sがゆっくりと左に曲がる(白い矢印方向)場合は黒いトリムボタン(反対方向に)でモデルを調整してください。 RC EYE One Sの左への動きが止まるまでトリムボタンを押してください。

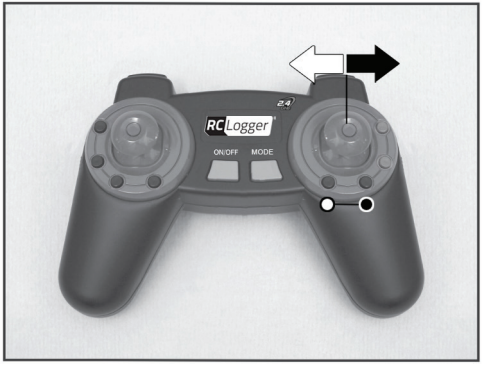


図 4a

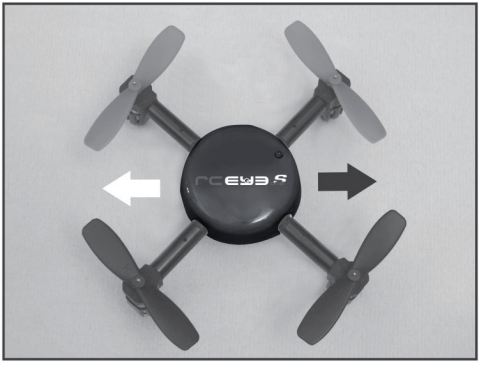
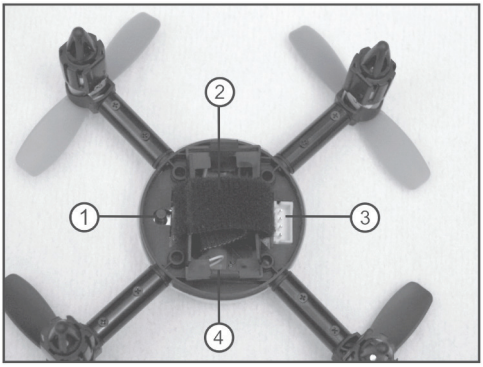


図 4b

飛行モード

「RC EYE One S」は、皆さまのご経験に基づき、3つの異なった飛行モードが選択できます。 選択ボタン(1)はRC EYE One Sの下部にあります。



飛行モードの切り換え

1. 飛行用電池をRC EYE One Sに取り付けて、電池を接続します。 RC EYEの状態LEDは緑色で点灯したままになります。
2. スロットルレバーが完全にゼロ位置にあることを確認します。TXをオンします。RC EYEの状態LEDは最後の飛行モードに応じて、緑色、オレンジ色、または赤色のどれかで点滅し始めます。飛行モードを変えるには、ビープ音が出るまでMODEボタンを二回押します。1回のビープ音が、初心者モード(LEDが緑色で点滅)にあることを示します。そして2回のビープ音がSPORTモード(LEDがオレンジ色で点滅)で、3回のビープ音が熟練者モード(LEDが赤色で点滅)にあることを示します。

注意：非飛行中にのみ飛行モードを変更することができます。ユニットはその最後の飛行モードを記憶します。

> LEDが緑色で点滅 = 初心者モード = 制御指令が厳密に制限される
> LEDがオレンジ色で点滅 =スポーツモード = 制御指令が少し制限される
> LEDが赤色で点滅 = 熟練者モード = 制御指令の制限無し

初心者モードでは、「RC EYE One S」の飛ばし方を早く簡単に学べるように制御指令が限定されています。この飛行モードは、ヘリコプターやクワトロコプターを飛ばした経験が無かったり、飛行経験が短いパイロット向けです。電池交換後には初心者モードになります。
スポーツモードは既に他のヘリコプターかクワトロコプターモデルの何らかの経験があるパイロット向けです。このモードでは、初心者モードに比べ、はるかに機敏な制御ができます。
熟練者モードでは制御信号は全く制限されません。このモードでは安定化センサの利用は減らされます。「RC EYE One S」は、このモードでは従来のヘリコプターやクワトロコプターのように飛びます。これにより、制御特性は機敏です。このモードは既にヘリコプターやクワトロコプターモデルの経験の長いパイロット向けです。

アクロバット飛行モード

宙返りは必ず十分に広い場所でさせてください。RC EYEは屋内で宙返りさせられますが、最初に宙返りをさせる場合には、腕を磨く練習をするのに十分な広さの空き地で行って下さい。最小の5m×5mの広さの空地で行うことを推薦します。ユニットを破損させるたり、ご自身や他人に怪我をさせたりする恐れがあるので、スポーツと熟練者モードを完全に習得する前にアクロバット操縦をしないでください。ご注意申し上げました。最初にアクロバット操縦にチャレンジする前に、まずRCの熟練者のパイロットに教えてくれるよう、お願いしてください。

始める前に、4個のモーターがすべてきちんと働いているかどうかをテストしてください。それを行うには、ホバリングしている間にスロットルを全開まで開いてください。ヘリコプターはどの方向にも傾くことくなく、舵軸を回転させることなく、まっすぐ上昇るはずです。ヘリコプターがまっすぐ上昇しないなら、フルスロットル中にヘリコプターが傾いているモーター(または、プロペラだけ)を変えてください。ヘリコプターがまっすぐ上向きに上昇するまで、繰り返してこのステップを実行してください。負傷や物的損害を予防するには、クラッシュの後か部分交換の後に常にこのテストを再度行ってください。

製品保証には、部品の交換、いかなる種類の物的損害の補償、お勧めの安全ガイドラインに従わないパイロットの飛行操縦により生じた自身あるいは他人への身体傷害の補償、も含まれておりません。皆さま、すなわち、パイロットである皆さまが、アクロバット飛行であるかカジュアル飛行であるかにかかわらず、どのような種類の飛行であろうと飛行させる前に、ユニットが完全な状態であることを点検する責任があります。
飛行を試みる前や不注意に衝突させてしまった後では、衝突程度の大小にかかわらず、毎回十分な外観検査を行なうことを強く推奨します。各モータと、モータ軸と、モーターの結線状態と、プロペラの位置とプロペラの状態を観察してください。欠損部品があればその部品をすぐに交換してください。お持ちの製品状態に確信が得られない場合には、熟練者のRCパイロットに相談するか、すぐにcontact@rclogger.comにアクセスして弊社のカスタマー・サポートご相談下さい。製品の状態に問題が無く、飛行させても問題が無いと確認できるまで、飛行させないようにしてください。

製品をご使用になる前に警告を受けられ、その警告を受理されました。

アクロバット飛行モードをさせる

アクロバットのモード可能にするには「アクロボタン」を押して、飛行中その状態を保持したままにして下さい。

宙返りやロールをさせる

TXの(「ACROボタン」)で左前のボタン(「ACROボタン」)を押したままにすると、SPORT飛行モードと熟練者飛行モード時にのみ、アクロバット飛行させられるようになります。アクロバットモードに入っている間は状態表示LEDが速い速度で点滅します。「ACROボタン」を元に戻すと、アクロバットモードは再び無効になります。アクロバットモードに入っているとき、ユーザは、ニック／ロールスティックを任意の方向に目一杯押すことにより、宙返りの方向を選択することができます。組み合わせ宙返り（ニックとロールの組み合わせ）はできません。

初めてアクロバット飛行操作をするには

> スポーツモード宙返りのお勧め:
約5メーターの高さでホバリングさせておいて、‘アクロボタン’を押したままにしてください。次に、スロットルスティック目一杯押し、約1秒後に、補助翼/エレベータースティックをお好みの方向に押し、すぐに、それを戻してしてください。ヘリコプターが安定して、再び上昇し始めるまで、スロットルを最大位置に保持してください。ヘリコプターが宙返りをし始めれば、‘ACROボタン’を離せます。高さが低いほどヘリコプターが失うパワーは、より多いのでたくさんのパワーを使う事になります。SPORTモードでは、ヘリコプターが逆さでの間、ヘリコプター自体はパワーをより減少させます。

> 熟練者モード宙返りのお勧め:
約5メーターの高さでホバリングさせておいて、‘アクロボタン’を押して保持してください。スロットル目一杯押して(最大にして)、ヘリコプター上向きに加速してください。補助翼/エレベータースティックをお好みの方向に押して、宙返りを開始してください、そして、スロットルを約25%まで戻してください。ヘリコプターが直立位置に戻ったらすぐに、リコプターが再び安定するようにスロットルを開いてください。スポーツモードと比べて、パイロットのRCコントロール入力によるモータのパワーが変わるだけでヘリコプター自体は変わりません 。

宙返りを楽しんで下さい!

一般的取扱い

「RC EYE One S」の取扱方法は、基本的には普通のヘリコプターと同じです。しかし、少し違いがあります。 ヘリコプターは、特殊なジャイロによりトルクバランスが安定させられています(操舵機能において)。これには2個の異なったシステム(「ノーマルジャイロ」と「進路固定」ジャイロ) があります。

ノーマルジャイロはパイロットによって引き起こされる駆動速度、と/または昇降変更、と/または外部の影響(例えば横風)による傾斜の動きに抗してテールプロペラで安定させます(保護する)。「進路固定」ジャイロ機能は、このような傾斜の動きに対し、この状態を保ち続けるようにします。
両方のシステムは制御指令を受けて反応します--例えば、「左へ操舵」、とその結果生じる傾斜の動きをすぐに止める中立位置化です。

皆さまの「RC EYE One S」では、標準のヘリコプターとは違い、方向舵、昇降舵、および補助翼機能のために6個のジャイロが組み込まれています。組み込まれているジャイロは、標準のジャイロと比較すると、標準ジャイロでも「進路固定」機能付きジャイロのどちらでもありません。

「RC EYE One S」のジャイロは、「RC EYE One S」が、制御指令が終わったら、常にニュートラル・ポジション(ホバリング飛行)に移るようにリンクされています。 もちろん、これがどれくらいうまく働くかは「RC EYE One S」を利用可能なスペース、飛行速度、そして/または一般的な飛行状態、「RC EYE One S」のトリム値、そして外部の飛行条件(例えば風) に依存します。
この制御モードは熟練者モードでは不作動になります。「RC EYE One S」の位置と飛行制御制は、最後の制御指令により、リセットされません。

11. 初めての離陸

リモコン飛行モデルの操作と取り扱いについて学習しなければなりません。そのようなモデルを一度も操作したことがないなら、特に慎重に始めて下さい。そして、最初に、リモコン指令に対するモデルの反応に慣れてください。我慢強く練習して下さい。参考のために初めての離陸に関する説明章の説明をご覧下さい。
製品を操作する場合には、絶対に危険を冒さないでください。皆さまご自身の安全とまわりの環境完全はモデルをお使いになる皆さまの責任です。

1. オン/オフ・ボタンを押して、リモコン送信機をオフにします。　送信機は2回音を出してこれに応答します。
2. スロットルレバーを常にバック位置にして下さい(エンジンオフ)。
3. 送信機のトリムを「0」にリセットします。これを行うには、方向舵、昇降舵、それに補助翼 (さらに、送信機とRC EYE One Sの操作部品の図の、88010RC(モード1)送信機操作部品の4と6、を見て下さい)に関連する2つのトリムボタンを順に、トリムまた、の中立化完了の音が2回鳴るまで押して下さい。
4. 次に、飛行用電池を接続します。これには、電池のプラグを正しい極性で「RC EYE One S」のソケットに差し込みます(また、送信機とRC EYE One S の操作要素、モデルの底部、要素3;プラグの外観をチェックしてください)。正しい受信信号を受信して少ししてから、モデルのLEDが緑色で点滅を開始します。
5. 「RC EYE One S」の規定の場所に電池を置き、フックとマジックテープで固定して下さい。(また、送信機とRC EYE One S の操作要素、の図を見てください、モデルの底部、要素2と4の図をご覧下さい))。
6. ご希望のモードを選択するために、ボタンのモード(図6、1項)を押します。
   - LEDが緑色で点滅 =初心者モード (電池交換後の基本モードです)
   - LEDがオレンジ色で点滅 =スポーツモード
   - LEDが赤色で点滅 =熟練者モード
7. 出来るだけなめらかな水平面(例えば、石の床)にモデルを置いてください。着陸足が簡単に捕らえられることがあるので、カーペットはそれほど適当ではありません。

8. スロットルレバーを慎重に前側に押して、エンジンを始動します。「RC EYE One S」が地面から少し浮き上がるまでのプロペラの速度(スロットル)を少しずつ上げてゆきます。「RC EYE One S」が送信機が正しく設定されるのを確かめるために、ヘリコプターが上昇直前に、補助翼と昇降指示のテストします。 一般に、速くて大きな制御の動きは避けてください。 また、「RC EYE One S」が動くかどうかと、どの方向に動くのかをしっかりと見て下さい。 リモコンのトリミングを使用することによって、望ましくない動きを防ぐことができます。

重要!きちんと手入れしていない飛行装置を決して離陸させないで下さい。

9. そして、地面から少なくとも50cm以上に「RC EYE One S」が上昇するまで、スロットルを開きます。この高さでは、いわゆる大地効果がなくなり、その飛行位置では「RC EYE One S」は、安定性が良くなり、容易制御できるようになります。方向舵、昇降舵、または補助翼用のトリムレバーを操作して慎重にドリフトを修正して下さい。「RC EYE One S」がいったん空高く上昇したら、「RC EYE One S」が滑空飛行するまで、スロットルを閉じます。また、めての離陸に関する説明章の注意をご覧下さい。
10. さあ、重要な部分を上手く操縦して、「RC EYE One S」のゆっくり、かつ慎重なスロットル操作に慣れましたね。
11. 「RC EYE One S」を着陸させるために、「RC EYE One S」が地面に近づくまで、スロットルを少し戻します。 地面に少し接触するのは問題ないので、小刻みなスロットル修正操作をしないで下さい。垂直に着陸(「ヘリコプター着陸」)出来るところに着陸させてください。速い横速度での着陸(「飛行機着陸」)はさせないで下さい。
12. 着陸したら、モーターをオフにします(スロットルレバーを戻します)。
13. 「RC EYE One S」の離着陸感をつかむために、この始動手順を数回練習してください。いったんコツをつかめば、方向舵、昇降舵、それに補助翼を操作しで飛行方向を制御できます。飛行操縦をする前に必ず、ゆっくりと慎重に操作するという操縦を練習して下さい。 最初の飛行時間は30~60秒以内にして下さい。
14. モデルの飛行特性に慣れたら、次の動きに入れます。1mの前進/後退飛行(ノッド機能)のような簡単な飛行運動に入ります。次に、左/右へのホバリング(補助翼機能)の練習をします。 必要な練習が済んだら、円飛行と8の字飛行の練習に移ります。
15. 飛行を終了する場合は、着陸後にモーや-をオフしてください。そして、モデルから電池を外し、そして送信機をオフします。 送信機をオンした時には、信号音が1回だけ出ます。

12.2.4 GHZ TX とRXのバインディング

TXとRXのバインディングを行う前に、2.4GHzの送信機に単4電池が入っていることを確認しする。

1. 飛行用電池をRC EYE One Sに取り付けて接続する。RC EYEの状態表示LEDが緑色で点灯します。
2. 状態表示LEDが赤色/緑色で点滅し始めるまで、電池容器横のRC EYE One Sの「バインドボタン」を押したままにする。
3. スロットルレバーが完全に閉位置にあることを確認する。送信機をオン(2回のビープ音)にしてから、オフ(1回のビープ音)する。もう一度オン/オフ ボタンを押して、3秒に1回のビープ音が聞こえるまで押したままにする。これでバインディングモードになりました。
4. バインディングの行程が完了し、RC EYEの状態表示LEDが選択した飛行モードに対応した色で点滅するまでお待ち下さい。規定時間内にステップ1-4を行う必要があります。さもないと、バインディングは上手くいきません。
5. 注意：前モデルの飛行モード選択ボタン(現在は「バインドボタン」と呼ばれる)は、異なった飛行モード選択にはもう使いません。それは、現在では、バインディングモード切替にのみ使います。

13.2.4 GHZ周波数ホッピングー「FHSS」

RC EYE One Sの送信機とレシーバーには、2.4GHzのFHSS技術が使われています。この変調技術は、無許可の電波干渉、と／または、携帯電話、無線ネットワーク、リモコン制御のおもちゃなど、事実上全ての2.4GHz動作の製品の電波干渉の影響を最少限にするための技術で、無線通信している間、周波数を頻繁に切り替えます。この技術は一般に「周波数ホッピングスペクトラム拡散」または単に「FHSS」と呼ばれています。

その結果、FHSSが自動的にこれを行うので、ユーザは特定の周波数チャンネルを選ぶ必要はありません。したがって、ユーザは隣接した地理的な領域の中で他のリモコン製品と他の送信機ないしレシーバと一緒にこの製品を使うことがができます。

14. メンテナンス、保守、修理

一般的な清掃

「RC EYE One S」は非常に簡単ですが、それにもかかわらず、よく設計された飛行装置です。注油や、特別な維持が必要な機械部品は全くありません。しかし、「RC EYE One S」を飛行させた後には、とれる汚れ(羊毛クズ、ほこりなど)は取り除いて下さい。

掃除には、乾いた布か、少し湿した布を使用してください、エレクトロニクス、充電池、モーターに水が付かないように気をつけて下さい。

エレクトロニクスにカバーをせずに、飛ばさないでください。どのような湿気も内側の中央部分に入らないように確実にしてください。 雨が降っているときには決して飛ばさないでください!

ジャイロ飛行センサのリセット

特に初心者モードでにおいて、お持ちの「RC EYE One S」が、一方向に押し流されていくようなときにはセンサー較正をリセットする必要があります。「EYE One」が短い時間後に一方向にドリフトし始めたらトリム調整が必要で、しばらくしてから再びドリフトし始める場合の要因としては次の二つが考えられます:

1. モーター・シャフトがわずかに曲がっているか、プロペラに欠陥があり、振動を引き起こしている。モーターを交換するかプロペラを全く新品のセットに交換することで、この問題は解決します。「RC EYE One S」を衝突させたり、運搬中に機械のストレスを与えることが典型的な発生要因でます。
2. 搭載センサーの工場出荷時の較正が消えてしまった。一般的に、これは衝突、繰り返しの衝突、といった強い衝撃（例えば事故）や、高温に晒されると起こります。輸送に関連する場合もあります。

1. 「RC EYE1S」を出来るだけ平坦で水平な場所に置きます。
2. 飛行用バッテリーが接続されている間、 送信機の電源を入れます。
3. スロットル/補助翼スティックを動かして、一番下の右の位置につけ、次に昇降舵/方向舵スティックを完全に垂直位置にします。”
4. 送信機が音信号を鳴らすまで、所定の位置でそれらのスティックを保持してください。すると、「RC EYE1S」の状態LEDは点灯したままになります。
5. 較正は完了しました。ドリフトが観測されてはなりません。「RC EYE1S」にまだドリフトが起きる場合はセンサーが壊れているか振動がまだ残っているからです。水平飛行ができるまで4個のモーター全ての交換を続けてください。

初めて衝突させた場合にする事

製品のきちんとした状態を保持する簡単な方法は、明らかなちょっとした衝突の後にもEYE One Sの目視点検をすることです。最も一般的な症状の1つは、プロペラの平行アライメントの狂いです。　この原因の可能性が高いのがモーターシャフトの曲がりです。すぐに直さないと、わずかに曲がったシャフトでも重大な結果を引き起こすことがあります。

良品のモータに交換することもできますし、ほとんどすべての場合、1組の平らなやっとこを使って、注意深く元の形状に戻すこともできます。覚えておいていただきたいのは、プロペラが高速回転で物に当たると、軸は大きく曲がってしまいます。これは正常な現象で、応急手当が必要です。

プロペラのトラッキングがずれているかどうかは、容易に目視チェックできます。目と同じ高さで2mほど離れた位置にRC EYE One Sをホバリングさせ、各プロペラ毎に真っ直ぐな回転軸だけしか見えないことを観察してください。4つのプロペラのうちの1つでも「2つ」(2軸)が見える場合は、すぐにトラッキングを調整してください。

トラッキングのアライメント不良を調整しないと何が起こりますか?そうですね、明らかに1個のモーターが、より駆動する必要があり、多くのパワーを消費して、熱を持ちます。そして、商品設計でそのようなことが起きないように努力していますが、後日、いつか飛行制御器が発火するかもしれません。

損傷がないかどうか、常に点検するよう、強くお勧めします。

プロペラの交換

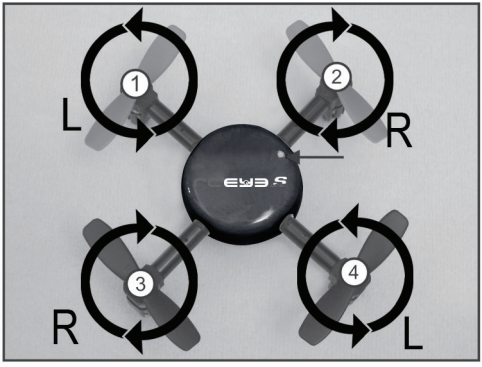
注意！

必ずそれぞれのモーターの回転方向と対応するプロペラの選択を間違えないように、良く確認してください。もしも間違って選ぶと、モデルをきちんと飛ばすことができなくて、次に飛ばそうとするときに、不安定な動きをします。怪我に対する保証/製品の保証とも受けられません。回転方向はプロペラにつけてあります(「L」または「R」)。「L」か「R」マークで強調表示してあります。「L」のマークのプロペラは左回転(反時計回り)のモーターに取り付けます。「R」のマークのプロペラは右回転(時計回り)のモーターに取り付けてください。

衝突や他の動作でプロペラが破損したら、至急取り替えてください。また、小さな亀裂やちょっとした接触時でも同じことが言えます。高速で回るので、部品がゆるんでいたり、プロペラが破損していると、ダメージを与えたり、周辺に損害を与えたりす

る要因になりかねません。

1. プロペラを取り替えるには、モーターシャフトから破損しているプロペラを引き抜いて、新しいものに交換します。プロペラはモーターシャフトに目一杯押し込まないでください。 モーターハウジングから約0.5㎜隙間をとって下さい。



2. 参考：真上から見てモデルLED(矢印)が右前部になるように「RC EYE One S」を置く
3. 前方のモーター(モーター1と2)がこのモデルの前方で、赤いプロペラを取り付ける。モーター1は反時計回りに、モーター2は時計回りに回転します。
4. 後部モーター(モーター3と4)には、黒いプロペラを取り付ける。モーター3は時計回りに、モーター4は反時計回りに回ります。
5. モーターシャフトを曲げないように気をつけてる。曲がったモーターシャフト(例えば、クラッシュによる)は、それにより引き起こされる振動により、飛行性能に悪影響を与え、センサを誤作動させます。シャフトが曲がったモータは交換しなければなりません。

モーターの交換

1. モーターブームからねじを取り外し、破損したモーターを取り外す。ブームからモーターホルダーを外す。必ず適切な精密ドライバーを使用する。ネジ山を損傷しないように注意して作業するい。
2. モーターのモーターケーブルは外さないない。
3. 破損したモーターを取り替える。そして、モーターをブームに再取り付けする。取付ネジを締める。ネジを締め過ぎないように注意する。締め付け過ぎるとモーターマウントを破損する場合があります。

15. 廃棄

一般

環境品質を保ち、保護し、向上させ、人の健康を保護し、天然資源を注意深く合理的に利用するために、ユーザーの皆さまは使わなくなった製品を、法的規制に従って合理的に関連施設にご返却ください。
十字の車輪の付いたゴミ入れは一般廃棄物としてではなく、製品を個別収集する必要があることを示します。

電池と充電池

使用済み電池と二次電池の返却は法律により義務付けられています(*バッテリー規則*)。
一般廃棄物に使用済み電池を混ぜることは禁止されています。
危険物質が入っている電池/二次電池は十字の車輪の付いたゴミ入れマークがつけてあります。シンボルは一般廃棄物として廃棄するのが禁じられていることを示します。それぞれの危険物質の化学記号は*Cd*=カドミウム、*Hg*=水銀、*Pb*=鉛です。
電池と充電池は、お住まいの地方自治体、当社製品の販売店、電池/2次電池の販売店など、任意の収集所に無料で返却できます。
これにより、皆さまは法律上の義務に従って、環境保護に貢献されることになります!

16. スペアパーツ

それぞれの製品のスペアパーツリストについてはの当社のウェブサイトwww.rclogger.com の アクセサリ項をご覧下さい。

LiPo 電池と充電器セット （ RC EYE One用） 89029RC
> LiPo電池 （各2 x 3.7 V 350 mAh） 2個
> USB LiPo 充電器 1台

交換蓋(RC EYE One用） 89032RC
> 交換蓋(RC EYE One ロゴ付き，黒色） 2個

交換蓋(RC EYE One用） 89033RC
> 交換蓋 5個

電池パック （ RC EYE One用） 89034RC
> LiPo 電池 （各2 x 3.7 V 350 mAh） 1個

RC EYE OneLink （RC EYE ONE用） 89036RC
> RC EYE OneLink 1個
> Futaba® ベース送信機モデル用結線ケーブル 1本
> JR/Spectrum® ベース送信機用結線ケーブル 1本
> USB ケーブル （ファームウエア更新用） 1本
> 取扱説明書 1冊

本体 （ RC EYE One用） 89037RC
> 本体 1台
> 電池トレー 1個
> ダンパー 6個
> スクリュー 7本

RC EYE OneCase （RC EYE One用） 89038RC
> RC EYE OnCase 1個

パラレル充電アダプター （RC EYE One用） 89041RC
> パラレル充電アダプター 1台
> 取扱説明書 1冊

RC EYE OneCam 5.8 GHz FPV Kit 89042RC
> RC EYE OneCam TX 1個
> 終端解放ケーブル (20 cm) 1本
> 2 -1変換ケーブル 2本
> 両面テープ (16 x 16mm) 2個
> RC EYE OneCam 5.8 GHz RX 1個
> LiPo 充電池 1個
> ミニUSB ケーブル 1本
> AV ケーブル 1本
> 取扱説明書 2冊

RC EYE OneCam TX 89049RC
> RC EYE OneCam TX 1個
> x終端解放ケーブル (20 cm) 1本
> 2 -1変換ケーブル2本
> 両面テープ (16 x 16mm) 2個
> 取扱説明書 1冊

RC EYE OneCam 5.8GHz RX 89050RC
> RC EYE OneCam 5.8 GHz RX 1個
> LiPo充電池 1個
> ミニUSBケーブル 1本
> AV ケーブル 1本
> 取扱説明書 1冊

クラッシュ・キット(RC EYE One用 S) 89051RC
> スタッド付きモーター 4個(黒 2個, 赤 2個)

プロペラセット (RC EYE One用 S) 89052RC
> 交換用プロペラ 本8 (黒 4本, 赤 4本)

17. FEDERAL COMMUNICATIONS COMMISSION (FCC) DISCLAIMER

FCC ID: OMO-M-19 Remote control (MC-131-RCM1 & MC-131-RCM2)

RF Exposure mobile:

The internal / external antennas used for this mobile transmitter must provide a separation distance of at least 20 cm (8 inches) from all persons and must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter."

Statement according to FCC part 15.19:

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

> this device may not cause harmful interference, and
> this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Statement according to FCC part 15.21:

Modifications not expressly approved by this company could void the user's authority to operate the equipment.

Statement according to FCC part 15.105:

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.

However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

> Reorient or relocate the receiving antenna.
> Increase the separation between the equipment and receiver.
> Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
> Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

18. 製品サポート

製品サポートを得るには「http://www.rclogger.com/index.php/contact-us」にアクセスするか、+852 2559 2662 に電話してください。
また、「http://rclogger.com/forum」の当社のサポートフォーラムにおこしください。

19. 技術データ

送信機

発信周波数:	2.4 GHz
送信機チャンネル数:	周波数ホッピングによる自動選定
送信機到達距離:	最大 40 m (見通しの良いところで)
供給電圧:	3 V/DC (2 タイプのマイクロ/単四電池)
外形 (幅x高x奥行):	150 x 100 x 70 mm
重量:	130 g

RC EYE One S

プロペラがなし時の直径 :	120 mm
総高:	47 mm
プロペラの直径:	64 mm
離陸重量:	約80 g
充電池:	1 x リチウムポリマー(LiPo)電池 (2 x 3.7 V 350 mAh)
飛行許容場所:	室内及び室外
操作環境:	風のときは不可
飛行許容温度範囲:	0 ～ +40 ° C
許容湿度:	相対湿度最大75% 結露無

充電器

供給電圧:	5 V/DC
必要入力電流:	最少 1.5 A
充電電流:	500 mA 各充電チャンネル毎に

20. RC EYE ONE Sの予備リリース情報

前モデルからの変更点(‘RC EYE One’から‘RC EYE One S’への):

> 周波数ホッピングを備えたTX/RX 2.4 GHz (Automatic channel selection自動チャンネル選定)。
> 固定タイマ機能付きTX。
> TXはモデル１で利用可能。
> 新着陸装置(モータが地面に接地しない)。
> 向上したモーター保護検出：パワーアップ後、モータ電流が2秒以上異なるとき、モーターはチェックされて、切られます。いずれかのモーターの短絡が検波されるとモーターへの通電がオスされます（*！）
> より強力なモータードライバー用MOSFET。
> スポーツモードのパワーが25%増大。スポーツモードの角度限界は変更なし。
> ぐらつきのリスクを最小化。ヘリコプターは、モーターパワーを絞って急降下した後にぐらつき出す傾向ががあない。
> パワーをゼロまで下げて2秒後に角度ゼロセット。これにより、ユーザーは、飛んでいる間、最高2秒間、スロットルをゼロにする事が出来ます。
> 飛行モードはの切り替えはTX経由のみ（前モデルは切り替えスイッチ）。
> 半自動アクロバット飛行モード。

(*!):RC EYE Sの飛行開始毎ににファームウェアは各モーターへの電流をチェックします。モーターが通常よりも大きなパワー(電流)を必要な場合は、安全のために全モーターへの電源スイッチがオフされます。故障したモーターを特定して、取り替えるまで製品を使用しないようにしてください。モータに寿命がきたか損傷を受けたかによる、モーターは大きなパワーを消費しているのかもしれません。例えば、曲がったシャフトやプロペラを含むモーターへの損傷。

JAP 法律に関する通知

これらの取扱説明書は、香港のCEI Conrad Electronic International (HK) Limited, 住所：18th Floor, Tower 2, Nina Tower, No. 8 Yeung Uk Road, Tsuen Wan, New Territoriesが発行しました。無断翻訳・複写・複製・転載を禁止します。写真複写、マイクロフィルム複写または電子データ処理システムによる保存のような、どんな方法による複製にも、編集者による事前の書面承認が必要です。一部の転載も禁止します。取扱説明書の印刷時に最新の技術仕様を反映します。我々は、技術的または物理的仕様を変える権利を保有します。
© 2013 by CEI Conrad Electronic International (HK) Limited